

平成27年5月30日(土)

てらまちきゅういき

ほうじょうじあと

寺町旧域・法成寺跡（平成27年度調査） 現地説明会資料

調査場所 京都市上京区寺町通荒神口下の松蔭町131ほか

調査期間 平成27年2月3日～平成27年7月下旬(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

1. はじめに

調査地は、寺町通と荒神口通に面し、京都御所の東に位置しており、藤原道長が寛仁4（1020）年に創建した法成寺の境内付近であったと推定されています。

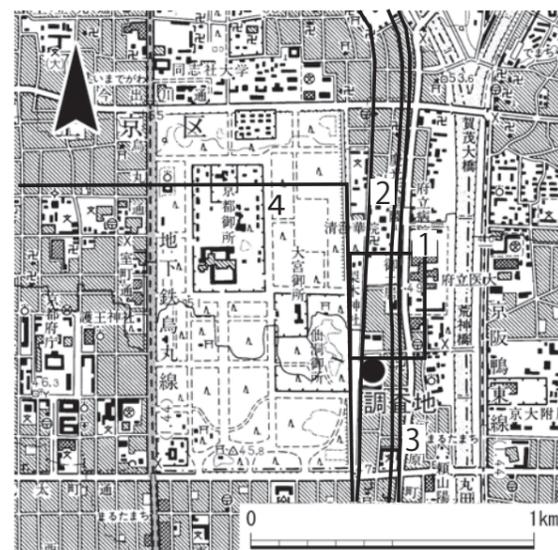
寺町通の由来は、豊臣秀吉が天正18（1590）年に京都の町割りを再編成し、京都市中に散在していた寺院を鴨川西岸に移転させて寺町を形成したことによります。「洛中絵図」寛永14（1637）年の調査地付近を見ると荒神口通から南に向かって、革堂（行願寺）・専念寺・常念寺が描かれています。

宝永5（1708）年の大火によって、調査地周辺の寺院は焼失し、他所に移転しました。その後、周辺は他の寺院や武家屋敷として利用されましたが、再び天明8（1788）年の大火によって焼失しています。

今回の発掘調査は、府立鴨沂高等学校校舎改築工事に先立ち、昨年度から実施しています。昨年度は1～3・5トレンチの発掘調査を終了し、今年度は4・6・7トレンチの調査を実施しています。昨年度実施した1トレンチ・2トレンチの調査では、2度の大火による火災層の他、寺院に伴う建物跡や溝を確認しています。また、法成寺に用いられたと考えられる緑釉瓦が他の時期の遺物とともに数点出土しました。

2. 調査の成果

4・7トレンチ 宝永の大火以前の墓地、井戸、土坑などがみつかりました。墓地は4トレンチ全域にひろがり、検出した墓は約250基を数えます。墓坑はそれぞれが時期差を持ちなが



第1図 調査地位置図

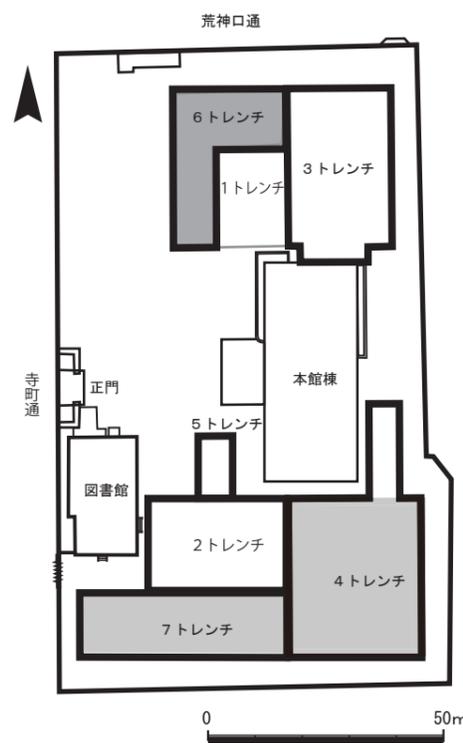
(国土地理院 1/25,000「京都東北部」)

1. 法成寺跡 2. 寺町旧域 3. 御土居 4. 平安京跡

ら、南北方向に列をつくるように掘られています。1列の長さは約10mで、15基～20基の墓が並び、2列1組として墓群を形成しています。墓群と墓群の間には、30cm～50cm程度の隙間があり、現在の墓地の区画とよく似ています。埋葬の方法は、少数の火葬もありますが、多くは土葬で、木棺や甕棺に納められています。墓坑の中からは、肥前磁器染付椀、銅銭、煙管、犬形土製品などが出土しています。

土坑1・土坑2からは、石造物がたくさん出土しました。土坑1では一石五輪塔が互い違いに組み立て埋納されています。これらは宝永の大火後、寺を移転する際に墓地を整理し墓石などを埋納したと考えられます。また、土師器が大量に投棄された土坑も確認できました。

4トレンチを中心として多くの石仏、五輪



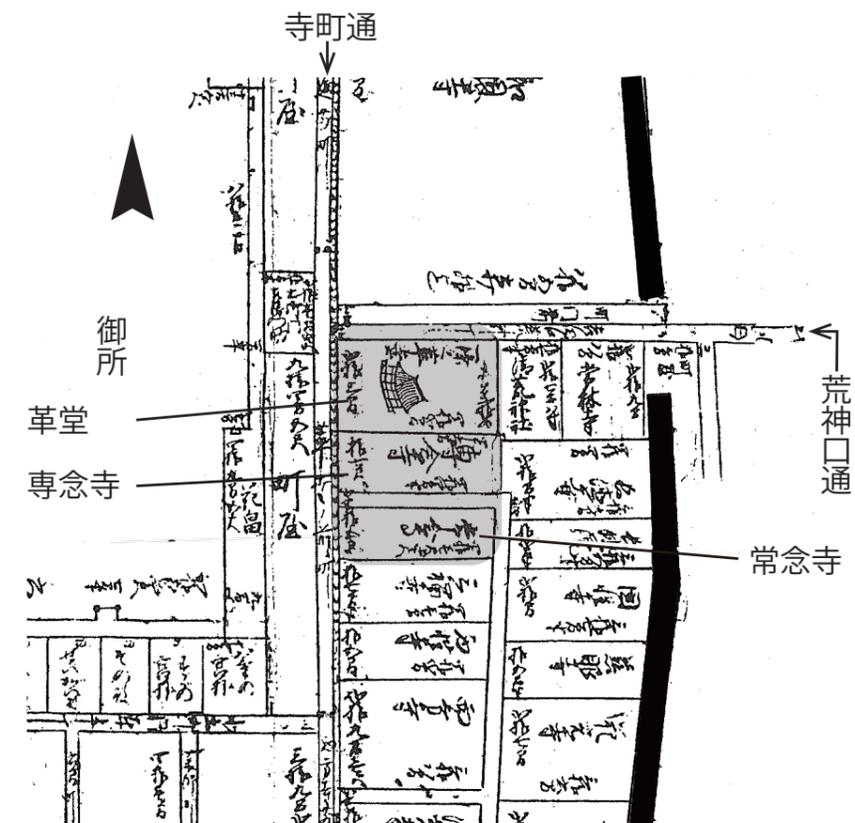
平成27年度調査

第2図 トレンチ配置図 (1/150)

塔、一石五輪塔、墓石が出土しており、その数は破片を含め500点近くになります。一石五輪塔や墓石には戒名とともに年号が刻まれています。現在確認しているものの中で、最も古いものは天正18（1590）年、新しいものは元禄6（1693）年です。これは寺町の形成から宝永の大火で焼失するまでの時期と符合します。

4トレンチの西側にあたる7トレンチでは石列や溝、土坑、井戸などを確認しています。石列は東西方向に直線状にならんでおり、その周囲には円礫が敷かれています。これらは、4トレンチに広がる墓地へとつながる道や建物の区画に伴う遺構と考えられます。また、石列と石敷の間には溝が確認できました。溝の規模は、幅約1m、深さ約40cmで、排水溝として機能していたと思われます。その他に、17世紀の瓦や土器が大量に投棄された土坑も検出できました。これは、宝永の大火後の焼失物の片づけを行ったものと考えられます。

6トレンチ 旧校舎の基礎により多くの部分で遺構が残っていませんでしたが、部分的に土坑、柱穴、石組みなどを検出できました。この地点は荒神口通に面しており、洛中絵図による



第3図 洛中絵図(寛永14年)

● 調査地(推定)

■ 御土居

と革堂に相当する場所と考えられますが直接関連が考えられる遺構は検出されていません。

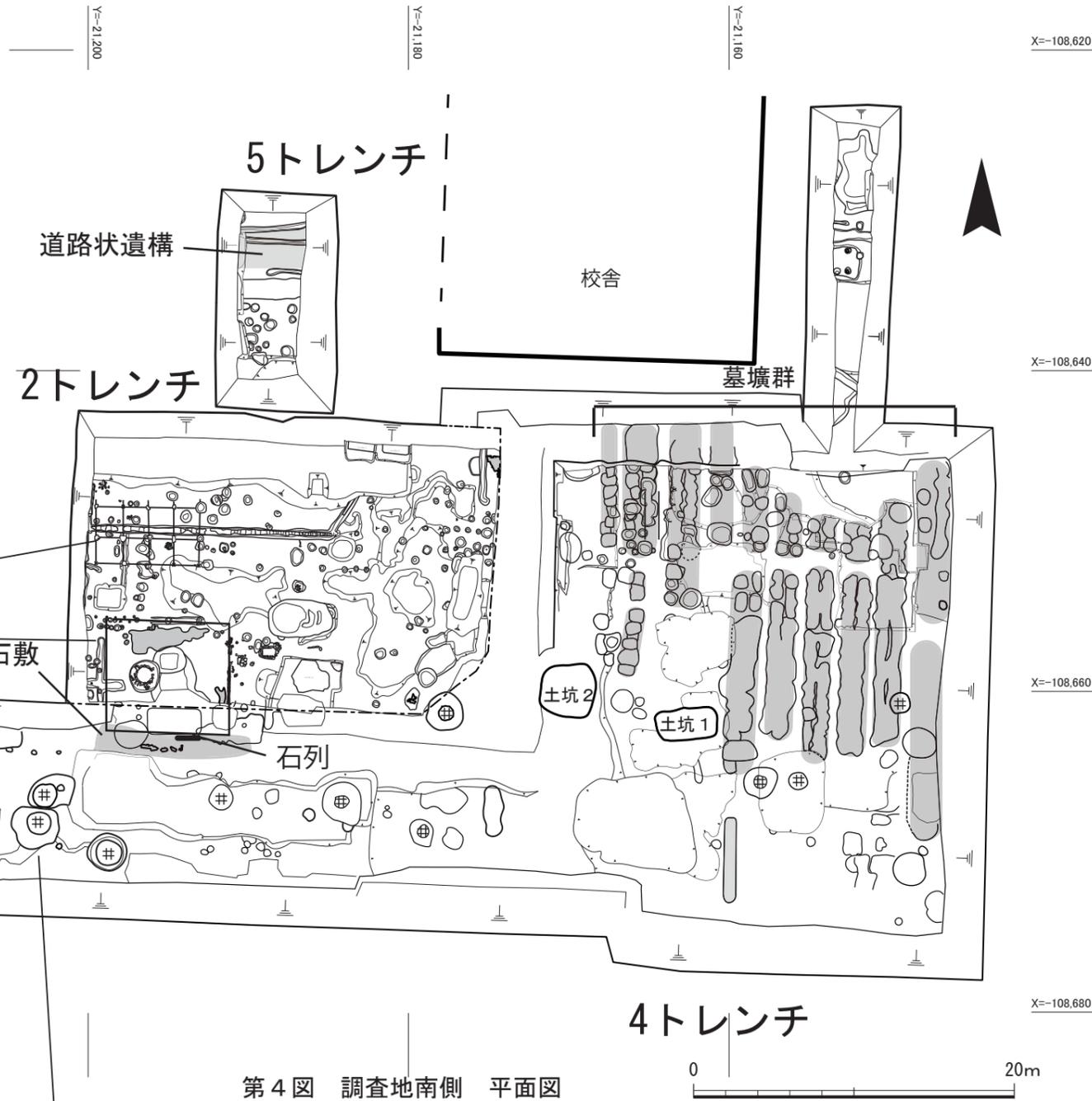
3. まとめ

今回、4・7トレンチの調査では、寺町旧域に設けられた一寺院の敷地の大半を調査しました。昨年度調査した4トレンチ西側の2トレンチでは、寺院の建物があったと考えられる方形の区画施設や礎石が検出でき、その周囲には建物が火事にあったことを示す焼土層が広がっていました。これらのことから寺町通に面する西側は寺院の本堂や生活空間として利用されていたと考えられます。今回の調査と合わせて東側の本堂の裏手には、墓地が広がる現在の京都市内の寺院と変わらない土地利用をしていたことがわかりました。また、絵図と照らし合わせると、浄土宗の寺院である常念寺または専念寺の可能性が高いことが指摘できます。

今回の調査は寺町形成期の寺院の土地利用や安土桃山時代から近世初頭の墓制の実態がわかる貴重な調査事例となりました。

- 天正15 (1587) 年 豊臣秀吉が聚楽第を築く。
- 天正18 (1590) 年 秀吉により、鴨川西岸に諸寺院を移転させる。(寺町の形成)
- 天正19 (1591) 年 秀吉が京都外周に御土居を築き、上京・下京を囲い込む。
- 文禄3 (1594) 年 伏見城の完成。
- 慶長5 (1600) 年 関ヶ原の戦い。
- 宝永5 (1708) 年 京都中心部の大半が焼失する火災がおきる。(宝永の大火)
- 天明8 (1788) 年 京都市街地約3万7千軒を焼く火災がおきる(天明の大火)

略年表



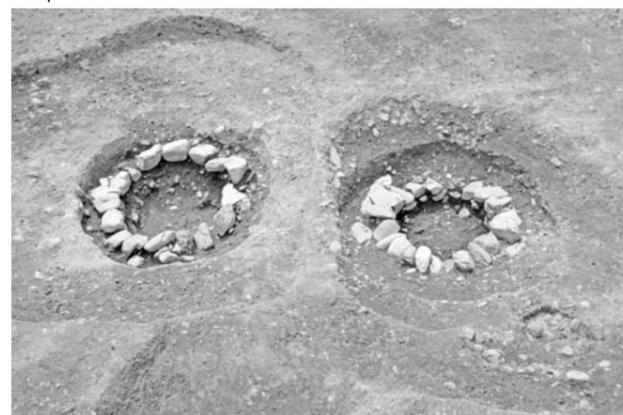
4トレンチ 墓群 (北から)
2列が1群となってその間には通路と考えられる空間があります



4トレンチ 土坑1 (東から)
一石五輪塔や墓石がていねいに穴に収められています



7トレンチ 石列 (北西から)
石が直線状に東西方向に並んでいます



7トレンチ 井戸 (東から)
石で囲んで作られています



4トレンチ 墓坑内 埋葬状況 (北西から)



4トレンチ 甕棺出土状況 (北から)
信楽焼の大甕を利用しています